2020年の先を見据えて

公益財団法人　日本オリンピック委員会
強化部副部長　渡部　徹（昭和56卒）

2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。私の人生の中で2度の招致活動に携わることができたのは貴重な経験でした。東日本大震災を体験した日本へのオリンピック・パラリンピック招致に反対する意見もありました。しかし、被災地で行った招致活動の際に地元の方々と意見交換をし「むしろ、こういう時だからこそ、もっとどんどんやってくれ」という言葉をいただき、間違ってはいないと意を強くしたものでした。

2020年に向けて私たちが取り組むべきことは、まずは世界と伍して戦えるトップアスリートを育成することです。勝利至上主義ではありませんが、勝つための努力・工夫・継続ができる選手を育成することが大事だと思っています。そしてもう一つ。オリンピックムーブメントの推進です。スポーツを通じた相互理解により、世界平和の構築に役立つこと。このことを次代を担う若人に伝えていかなければならないと考えています。

さらには未来への遺産の創造。1964年の東京オリンピックをリアルタイムで経験した世代が、いつまでもその記憶を鮮明に留めているように、2020年以降も長く語り継がれる大会を開催しなければなりません。私自身が大会運営に関わることはないと思いますが、素晴らしい大会になるように心から期待したいと思います。

スポーツには、知らない者同士を一つにする力があります。そんな、スポーツの力で日本が、そして世界が一つになれればと思います。

2020年の大会が素晴らしいものとなり、これをきっかけに健常者と障害者が隔たりなくスポーツに取り組むことができる社会が出来上がる。そんな希望を持ちながら本番を迎えたいと思っています。

わたなべ・とおる／男鹿市出身。公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）強化部副部長。大学卒業とともに日本体育協会に就職。1991年JOC法人格取得に伴い転職。2016年と20年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会に2度にわたって出向、招致委員会職員として奔走した。特に20年招致委員会では事業部長として主に国内支持率向上とマーケティングを担当、悲願の東京開催決定に貢献した。

ZOOM UP!

人生の転機に立ち会う喜び

株式会社りそなホールディングス
コーポレートコミュニケーション部長　有明　三樹子（昭和58卒）

「今年中に、あと2店舗をシンガポールに出店したい。物件探しや資金調達面でサポートを期待しています」。

これは、日本から、東南アジアに進出している中小企業の社長さんのコメントです。つい先日、ジャカルタ、シンガポール、マニラの3か国、3都市に出張してきました。なんだか、日本の1990年前後を彷彿とさせるような、旺盛な投資意欲と熱気が各国に溢れていました。

さて、私は、現在、銀行の広報部長という仕事をしています。日々、様々なステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、会社のブランド価値を高める情報発信をしていくというのが、大まかな仕事の内容なのですが、そもそも、私は、大学卒業後、証券会社に就職し、9年前に転職したという変わり種ですから、銀行業務そのものを経験していません。ですから「まずは現場を知る」ということが、何より重要となるわけです。冒頭の東南アジア出張もその一環です。

こうした現場訪問を通して痛感していることは、銀行の仕事とは、人々の人生の転機に立ち会い、応援できる力を持った仕事だということです。

「住宅を新築したい」「退職金の運用をしたい」「相続対策をしたい」という個人のお客さまの想いにお応えすることも、「機械を増やしたい」「新規ビジネスを立ち上げたい」から冒頭の「海外に出店したい」といった企業の皆さまの想いにお応えすることもできるわけです。

お金の付き合いではない、〝人〟と〝人〟との確かなお付き合いが、そこにあります。日々、現場を知り、発見した〝人〟と〝人〟とのお付き合いを伝えることで、銀行をもっと身近に、もっと便利にする。私の現在の目標です。

ありあけ・みきこ／秋田市出身。1987年大学卒業と同時に日興証券（日興コーディアル証券）に入社。2004年社内ベンチャー企業を設立、投資教育事業部長兼メディアプロデュース部長として投資教育や個人投資家向けIRのコンサルティングなどを手がける。2005年取引先のりそなグループへ転職。2006年日経ウーマン「ウーマン・オブ・ザ・イアー2007」受賞。2013年から現職。